

「北九州市地域防災計画見直し検討会」の設置について

東日本大震災を受け、本市と防災関係機関等により抽出した地震、津波、原子力等の課題について、北九州市地域防災計画の点検・見直しを行うため「釜石の奇跡」で知られる片田教授（群馬大学）を座長とし、有識者、住民組織代表等 11 名による「北九州市地域防災計画見直し検討会」を設置するもの。

1 検討の主眼

- (1) 防災教育によって多くの子供たちの命を救った釜石市の例を参考に、『想定外でも命を守れる防災体制』の充実を目指す。
- (2) 本市における各災害事象について、研究実績のある各分野の専門家により、『本市の災害特性に応じた防災対策』を検討する。
- (3) 女性委員の参加促進を図りながら、障害福祉、ボランティア、地域コミュニティ等様々な視点で『人に優しい防災対策』の充実を目指す。

2 見直し検討会の構成

分 野	所 属	氏 名
防災教育	群馬大学大学院 教授（災害社会工学）	片田 敏孝
土砂・地盤	西日本工業大学 名誉教授（地盤工学）	玉田 文吾
津 波	九州共立大学 教授（海岸港湾工学）	小島 治幸
地 震	大分大学 教授（地震学）	千田 昇
気 象	福岡管区气象台 技術部長	郷田 治稔
情報通信	(株)防災&情報研究所 代表	高梨 成子
市民代表	小倉北区市民防災会連合会 副会長	甲斐 幸子
	北九州市障害福祉団体連絡協議会 事務局長	古賀 由美子
	おとなりさんネットワーク 「えん」代表	田代 久美枝
教 育	北九州市立八児中学校 校長	田中 朋子
危機管理	北九州市 参与 (財)原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所長	郡山 一明

* 原子力災害対策については、本市への専門的知見を提供いただくため、福岡市、糸島市の見直しに係る委員である、九州大学大学院 出光 一哉 教授に「アドバイザー」就任をお願いする。

3 北九州市地域防災計画の見直しに係る課題（別紙参照）

市、関係機関により、今回の震災に関する課題を洗い出し、整理・分類した後、「市で直ちに取り組むもの」、「国、県の対応を受けて取り組むもの」及び「業務継続計画の策定で対応するもの」の主課題を明確にした。

4 検討会設置期間

平成23年7月1日 ~ 平成25年3月31日

* 直ちに直視せる課題は平成23年度中に行い、国、県の対応を受けて取り組む課題等は、平成24年度末までに行う。

5 第1回目検討会

日時：平成23年8月4日（木）10時～

場所：市役所本庁舎

6 北九州市防災対策強化プロジェクトチームの設置

「検討会」の意見の具体化を図るとともに、検討の対象となっていない、防災対策について点検・見直しを全庁的に迅速に推し進めるため、松崎副市長をリーダーとし、部長職23人によるプロジェクトチームを設置する。

（1）プロジェクトチーム設置期間

平成23年7月1日 ~ 平成25年3月31日

（2）第1回会合

日時：平成23年7月8日（金） 9時～

場所：市役所5階特別会議室A

（お問い合わせ連絡先）

北九州市消防局危機管理室地域防災課

担当：吉永（防災企画担当係長） 谷延（地域防災課長）

電話：582-2110 FAX：582-2112

北九州市地域防災計画の見直しに係る主な課題項目

【震災対策】

- 1 地域防災計画の想定震度（震度6弱（マグニチュード6クラス））の点検
 - （1）国における想定等の見直しに伴う点検
 - （2）北九州市活断層調査結果の点検
- 2 震災対策の点検
孤立集落、帰宅困難者、危険物施設、建物の耐震化、液状化、家庭防災等

【津波対策】

- 3 津波想定の特記と対策の充実
 - （1）国や県の想定見直しに伴う対応
 - （2）避難方法、避難所、避難路のあり方

【原子力対策】

- 4 原子力災害対策の内容
 - （1）県、福岡市等と連携した対応
 - （2）市民に対する情報提供、環境調査方法

【各種災害共通事項】

- 5 体系的な防災教育のあり方
 - （1）小・中学校教育における年代別防災教育と教育課程との連携
 - （2）市民や事業所に対する防災啓発
- 6 情報伝達対策の充実
 - （1）多様な情報伝達手段
 - （2）情報の内容、安否確認等
- 7 避難所運営体制の充実
 - （1）避難所に必要な機能等の検討
 - （2）長期避難における避難所の運営
- 8 災害時要援護者対策の充実
最新情報の共有、受け入れ施設
- 9 医療・救護体制の充実
広域的な情報把握、耐震化、仮設診療所 病院間応援体制

業務継続機能の確保に係る主な課題項目
執務環境、ライフライン、職員、優先業務